

群 教 セ	J01- 01
	平21.241集

# 中学生の人権感覚の基礎となる 人間関係形成能力の育成

— 「つながりプログラム」の作成と実践を通して —

長期研修員 佐藤 淳

## 《研究の概要》

人権教育への関心は年々高まってきているが、現状では人権感覚が十分身に付いていないという課題を抱えている。そこで本研究は、中学生の人権感覚を高めるために必要な人間関係形成能力の育成を目指した。基本的な技能や考え方を参加体験型学習で学び、各教科等で活用するとともに、これらの学びを自己評価シートでつなげて意識化する「つながりプログラム」を作成し、その有効性を実践を通して明らかにした。

**キーワード** 【人権教育 人間関係形成能力 中学校 参加体験型学習】

### I 主題設定の理由

21世紀は「人権の世紀」と言われ、国際連合は「人権教育のための国連10年」(1995)、その後「人権教育のための世界計画」(2005)を提唱し、人権教育の必要性を呼びかけた。これを受けて、わが国においても文部科学省が「人権教育・啓発に関する基本計画」(2002)、「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」(2008)などを示し、人権教育を推進している。本県でも「群馬県人権教育の基本方針」(2002)、「群馬県人権教育充実指針」(2007)などを打ち出し、人権教育の一層の充実を目指している。

その結果、「人権教育に組織的、計画的に取り組んでいる」(群馬県人権教育充実指針)とあるように一定の成果を上げてきた。しかし、「知的理解にとどまり、人権感覚が十分身に付いていない」(人権教育・啓発に関する基本計画)や「人権教育に視点を当てた授業実践や人権感覚育成のための指導が必ずしも十分でない」(群馬県人権教育充実指針)など「人権感覚」に関しては課題も指摘されている。このことは、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(2006)などの各種調査によって明らかにされた、「いじめ問題が根強く残っている」「人権上の諸問題に対して見て見ぬふりをする生徒が多い」など「人権教育で学んだ知識を、実生活の中で態度や行動に表すことができていない」という学校での課題と一致する。

「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」は、人権感覚の向上には、コミュニケーション能力や自他の人間関係を調整す

る能力といった、人間関係形成能力の育成が特に重要であると述べている。しかし、これらの人間関係形成能力は、「全国学力・学習状況調査」(2008)や内閣府の「低年齢少年の生活と意識に関する調査報告書」(2007)などでも、中学生には十分身に付いていないことが明らかになっている。

そこで、人間関係形成に関する基本的な技能や考え方を参加体験型学習で学び、各教科等で活用するとともに、これらの学びを自己評価シートでつなげて意識化する「つながりプログラム」を作成し、実践する。このことにより、人権感覚の基礎となる人間関係形成能力が育成できると考え本主題を設定した。

### II 研究のねらい

基本的な技能や考え方を参加体験型学習で学び、各教科等で活用するとともに、これらの学びを自己評価シートでつなげて意識化する「つながりプログラム」を作成し、実践することは、中学生の人権感覚の基礎となる人間関係形成能力を育成するのに有効であることを明らかにする。

### III 研究の見通し

次の1、2の過程に随時3を組み込んだ「つながりプログラム」を作成し、実践すれば、中学生の人権感覚の基礎となる人間関係形成能力を育成できるであろう。

1 人間関係形成能力の基本について理解を深めるために、参加体験型の「つながりトレーニング」

を作成し、実践する。

2 人間関係形成能力を習得、活用するために「つながりトレーニング」で学んだことを生かす授業を各教科等で意図的、計画的に実践する。

3 人間関係形成能力について学んだことを連続して記録することで意識化し、自己の成長を実感する「つながりシート」を作成し、実践ごとに活用する。

#### IV 研究の内容

##### 1 基本的な考え

###### (1) 中学生の「人権感覚の基礎となる力」とは

「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」によると、人権感覚とは、「人権がもつ価値や重要性を直感的に感受し、それを共感的に受け止めるような感性や感覚」である。それは、図1に示したように「価値的・態度的側面」と「技能的側面」について学ぶことで高められるとされている。

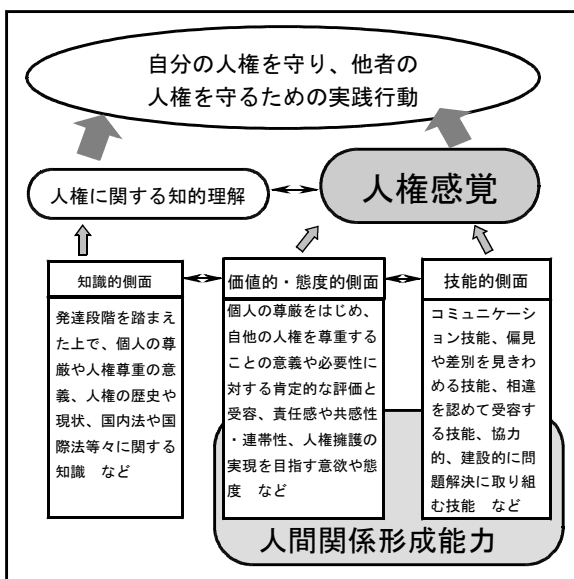


図1 人権教育を通じて育てたい資質・能力

本研究では、この「価値的・態度的側面」と「技能的側面」の中から、中学生の発達段階や課題を踏まえ、「人権感覚の基礎となる力」として次の二つの能力に視点を当てた。

一つめは「価値的・態度的側面」における「自他の理解能力」である。これは、自分の長所や短所を理解し大切にしようとする自己理解力と、それを根底におきながら、他者の多様な個性を理解

し、互いに認め合うことを大切にしようとする他者理解力のことである。

二つめは「技能的側面」に含まれる「コミュニケーション能力」である。これは考えや気持ちを正しく理解し合ったり、適切な話し方や聴き方で話し合ったりするために必要な力のことである。

###### (2) 「人間関係形成能力」とは

「キャリア教育推進の手引」（2006）では、「自他の理解能力」と「コミュニケーション能力」を合わせたものを「人間関係形成能力」としている。そこで、本研究においても人権感覚の基礎となる二つの能力を「人間関係形成能力」ととらえる。

###### (3) 「つながりプログラム」とは

中学生の人権感覚を高めるための基礎となる、人間関係形成能力を育成するためのプログラムであり、その研究の概要を図2に示す。

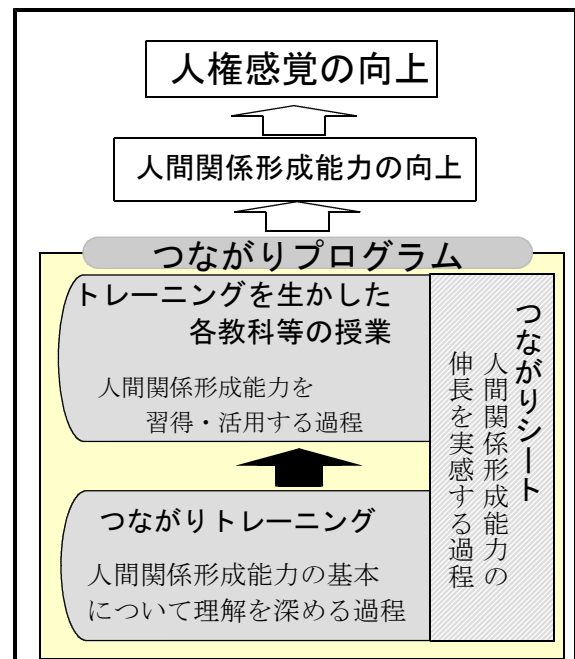


図2 研究の概要

人間関係形成能力を身に付けるには、まず最初に基本的な技能や考え方の理解を深めることが重要となる。そこで、参加体験型の「つながりトレーニング」を実施して、コミュニケーションと自他理解の基本的な技能や、「自分も大切、相手も大切」という考え方を学ぶ。その後、基本的な技能や考え方の習得や、実際場面への活用につなげるために、「つながりトレーニング」を生かす授業を各教科等で意図的、計画的に繰り返し実施する。そして、それらの学習の中で「つながりシート」を活用し、人間関係形成能力の視点でつなげて意識化することで、自己の成長を実感できるよ



(2) 「つながりトレーニング」を生かした各教科等の授業について

「つながりトレーニング」で理解した、人間関係形成能力の基本を、教科等の授業の中で、その時間のねらいを達成するための手段として生かすことによって、人間関係形成能力の習得と活用力の育成を目指す。具体的には、授業の中に「話し合い」と「相互評価」の場面を取り入れ、国語、社会、英語、学級活動で実践した。

「話し合い」は、生徒が「話し合い方トレーニング」で学んだ基本的な考え方や技能を中心に、コミュニケーションの技能や自我理解の基本的な考え方を活用できる場面において取り入れた。同様に、「相互評価」は、「他者理解トレーニング」で学んだ基本的な考え方や技能を中心に、自我理解やコミュニケーションの基本的な考え方を活用できる場面において取り入れた。例えば、国語の授業で実践できる場面は、「音読練習場面」や「主人公の心情を読み取る場面」などである。表2に「つながりトレーニング」を生かした授業の実践例(中学校2年国語「平家物語」)を示した。

表2 平家物語の実践

時間	学習活動	音読練習場面で相互評価
	<p>・本時の課題を整理する。</p> <p>数楽の巻頭の内容を整理しながらする。</p> <p>【音読練習①巻頭の巻頭】…10分 数楽の巻頭の内容を整理する</p> <p>1.個人練習 [3分] 2.ペア練習(アドバイス) [3分] 3.ペア練習目(チェック) [3分]</p>	<p>友達の音読をよい点を見つけながら聴き、称赞した後、本時のねらいに沿った音読にするためのアドバイスをする活動を取り入れる。</p>
	<p>原谷直家的心情を読み取る。</p> <p>【読み取り①】…15分 「原谷直家はなぜ数楽を助けるのだろうか」</p> <p>1.個人練習 [5分] 2.グループ話し合い [5分] 3.発表 [5分]</p> <p>古文の中から根拠となる部分を探し出す。</p> <p>【読み取り②】…15分 「原谷直家が数楽の巻を切ることを考えたのだろうか」</p> <p>1.個人練習 [5分] 2.グループ話し合い [5分] 3.発表 [5分]</p> <p>古文の中から根拠となる部分を探し出す。</p> <p>・次回の内容を知る。</p>	<p>主人公の心情についての話し合い</p> <p>自分の考えが友達との話し合いによって深まるように、自分の意見と共通する部分や、違う部分に視点を当てて聴くよう指示する。</p> <p>主人公の心情についての話し合い</p> <p>自分の考えがグループでの話し合いによって深まるように、自分の意見と共通する部分や、違う部分に視点を当てて聴くよう指示する。</p>

(3) 「つながりシート」について

人権感覚向上のための取組や人間関係形成能力育成のための取組はこれまでも行われてきている。しかし、それぞれが単発的に実施されており、効果も一過性である場合が多いという課題を抱え

ていた。そこで、人権教育の取組において、人間関係形成能力の視点でつなげて意識化する「つながりシート」を作成し、活用した。その際、次の点を工夫した。

- 生徒自身が、学びのつながりや自己の成長を理解しやすいように、1枚にまとめた。
- 自己の成長を実感できるように、プログラム開始前と終了後に自分自身を振り返り、比較する欄を設けた。【振り返り欄(実施前・実施後)】
- 意識の継続化を図るために、「つながりトレーニング」後や「つながりトレーニング」を生かした授業後に、学んだことや感想を毎回書ける欄を設けた。教科や単元、取組などの枠を越えて、横断的な視点から記入する場面が多いので、振り返る観点を決めておき、短時間で記入できるようにした。【感想欄】
- 日常生活を振り返ることによって実感した、人間関係形成能力の伸びや自己の成長を記入する欄を設けた。【生活欄】
- 自己評価だけではなく、他者からの客観的評価でも、自己の成長を実感できるように、人間関係形成能力の伸長や、実践的行動を認めるコメントを担当が記入する欄を設けた。【コメント欄】

図3と図4に「つながりシート」を示す。



図3 つながりシート(表面)



図4 つながりシート(裏面)

## V 実施計画

対象	中学校 2年生36名		
期間	平成21年10月19日～11月6日		
実践	学級活動 (6時間)	つながりトレーニング	5時間
		仲間のよさ見つけ「MVPは君だ」	1時間
	国語 (4時間)	言葉を受け継ぐ「平家物語」	4時間

○ 本研究では国語と学級活動で実践し、社会や英語でも協力校教員の協力を得て授業を実践する。

## VI 検証計画

検証の場面	検証の観点	検証の方法
人間関係形成能力の基本について理解を深める過程 (つながりトレーニング)	「つながりトレーニング」を実践することで、人間関係形成能力の基本について理解を深めることができたか。	・生徒の観察・ワークシート ・つながりシート・アンケート ・抽出生徒の継続観察
人間関係形成能力を習得・活用する過程 (トレーニングを生かした各教科等の授業)	「つながりトレーニング」で学んだことを生かす授業を各教科等で意図的、計画的に行うことで、人間関係形成能力を習得・活用できたか。	・生徒の観察・ワークシート ・つながりシート・アンケート
人間関係形成能力の伸長を実感する過程 (つながりシート)	「つながりシート」に継続して記録することで、学んだ人間関係形成能力を意識化し、人間関係形成能力の伸長を実感することができたか。	・生徒の観察・アンケート ・つながりシート ・生活記録ノート(日記)

※ 検証におけるアンケートは4段階選択式(4:とてもそう思う 3:そう思う 2:そう思わない 1:全く思わない)と自由記述を併用した。

## VII 実践の概要と結果・考察

### 1 つながりトレーニング

#### (1) 実践の概要

つながりトレーニングは学級活動の時間に実践した。最初、参加体験型の学習に不慣れな生徒もいたが、どのトレーニングにも熱心に取り組んでおり、回数を重ねるごとに慣れていった。例えば、「話し合い方トレーニング」では、議題として「宿題忘れをなくすにはどうすればよいか」についてブレインストーミングを用いて話し合い、たくさん意見を引き出すことができた。また、「自己理解トレーニング」では、自分自身を多面的に見つめる活動を行い、多くの生徒が自分らしさや自分のよさを見付けることができた。トレーニング後には、毎回「つながりシート」に感想を記入した。

#### (2) 結果・考察

##### ① 生徒の変容

「つながりトレーニング」実施後に「自分の技

能の伸びた実感」についてのアンケートを実施し、図5にまとめた。すると、「つながりトレーニング」実施後に技能の伸びを実感している生徒が五つの技能共に70%を上回っていることがわかった。中でも「コミュニケーション」に関する三つのトレーニングでは80%以上の生徒が伸びを実感した。

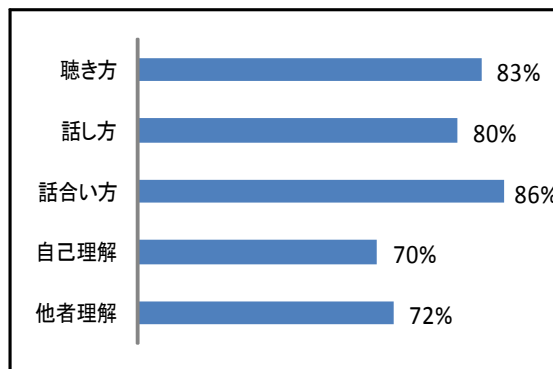


図5 技能が伸びた実感をもった生徒の割合

また、「つながりトレーニング」実施前と実施後で、「自分の現在の力」について4段階選択式

の自己評価を実施し、その結果を図6にまとめた。

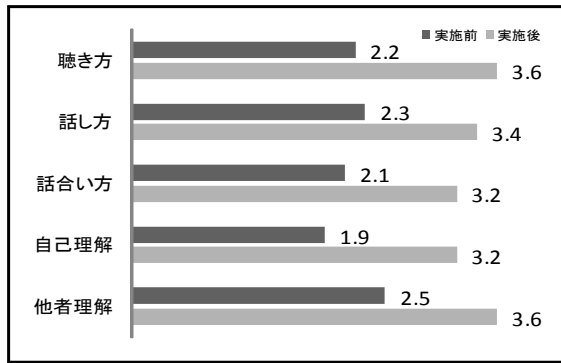


図6 トレーニング前後での自己評価の比較

比較の結果、トレーニング後に全ての力について自己評価の平均が大きく上昇していることがわかった。中でも自己理解に関しては、実施前には平均1.9と最も低かったが、「自己理解トレーニング」後には平均3.2となり、上昇率は最大であった。トレーニング実施前の自己理解に関する自己評価が低かった抽出生徒2名の感想を、表3と表4にまとめた。

表3 抽出生徒A女の感想

聴き方	三つの聴き方を体験してみて、会話で聴く人、聴き方も大切なんだと思った。
話し方	話し方が変わっただけで、会話も二人の空気も随分変わったと思った。
話合い方	自分が考えていない意見が出てきて新鮮だった。楽しかった。
自己理解	今まで自分、自分のよさを見つめることはなかったが、探してみると意外とたくさんあった。
他者理解	探すのは難しいが、見つけてもらえると嬉しかった。友達に探してもらったところは、自分でも気付いていない部分だった。

表4 抽出生徒B男の感想

聴き方	どのように聴けばお互いにとってよいのかわかった。
話し方	相手の気分を害さずに自分の意見を言う言い方がわかった。
話合い方	同じだったり違うものだったり色々な意見が出て楽しかった。
自己理解	自分のいいところを見つけるのは難しく時間がかかってしまったが、友達に「確かに」と言われたときは嬉しかった。
他者理解	よく考えるとたくさん見つけた。自分の気付いていないところを教えてもらい、嬉しかった。

実施前は「自分のよさについて今まで考えたこ

とがなかった」「難しい」などと記述していたが、実施後は「自分のよさが意外とたくさんある」「たくさん見付かってうれしかった」と変化していることがわかる。ほとんどの生徒が同様の記述しており、トレーニングを通して、自分に自信がもてるようになったといえる。これらのことは、トレーニングが自己理解力の向上に有効であったことを証明している。同じように他の四つのトレーニングでも、多くの生徒が技能の伸びを実感し、それぞれの力の自己評価の平均も大きく上昇していることから、5回のトレーニングは、それぞれの基本的な技能を身に付けるために有効であったといえる。

また、前出抽出生徒2名の記述からは、友達とのつながりや他者への思いやりなどの基本的な考え方についても意識していることが見取れる。生徒A女(表3)は、「つながりトレーニング」を通して「会話は聴き手や聴き方も大切」「自分が考えていない意見が出てきて新鮮だった」のように、人間関係づくりには他者を意識することが大切であることに気付きはじめている。一方、生徒B男(表4)も今回のトレーニングを実施していく過程で「お互いにとってよいか考える」「相手の気分を害さずに」のように、相手のことを考えている記述が増えている。これは、毎回のトレーニングによって、「自分も大切、相手も大切」という人間関係形成能力の基本的な考え方について理解できたからである。

## ② 学習の流れ

「つながりトレーニング全体の感想」について記述式アンケートを実施し、整理分類し図7に示した。すると、「楽しく学べた」という感想が14人(39%)で最も多かった。これは学級の雰囲気

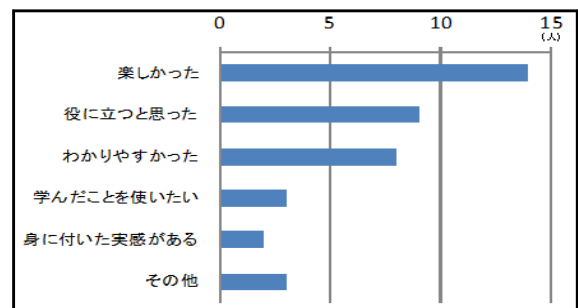


図7 つながりトレーニング全体の感想

や生徒の心を和らげるために、アイスブレーキングを取り入れたり、生徒の参加・体験の時間を十分に確保し、授業の中心に据えたりしたことによ

って、生徒が参加体験型の授業に対して、主体的に取り組めたからだと考えられる。今回取り組んだ内容は五つとも学校や家庭において、特に意識されることなく指導されてきた内容であり、中学生にとっては当たり前の内容である。しかし、今回の参加体験型のトレーニングを実際にやってみて、生徒は「わかってはいたけれども、こういうことだったのか」という新たな発見をした。知的理解中心の人権学習が多かった中学生にとって、自ら体験する過程を取り入れたことは、実感を伴った理解をするうえで有効であったと考える。

2番目と3番目に多かった「わかりやすかった」と「役立つと思った」という感想を合わせると17人(47%)であった。生徒の記述にも「実際にやってみせてくれたのでわかりやすかった」や「全部知っていると思っていたが、新たなことも教わってうれしかった」「どのトレーニングも説明がわかりやすく、実際に体験してみると、今後役に立ちそうだと感じた」などが見られた。生徒が実体験トレーニングをする前に技能情報の伝達することは、生徒の理解を助け、学習する意欲を高めるものであったと考えられる。

これらのことから、「アイスブレイキングを実施し、教員からの技能、考え方の説明後に、生徒が実際に参加・体験をしながら学ぶ」という「つながりトレーニング」の学習の流れは、人間関係形成能力の基本について理解を深めるのに有効であったといえる。

## 2 トレーニングを生かした各教科等の授業

### (1) 実践の概要

本実践では、国語(平家物語)と、学級活動(MVPは君だ)を実施した。また、英語と社会でも協力校教員の協力を得て実践を行った。

各教科等の授業のねらいを達成するための手段として「話し合い」や「相互評価」を取り入れた。授業後には、「つながりシート」に観点に沿った振り返りと簡単な感想を記入した。

### (2) 結果・考察

#### ① 国語の授業実践から

表2に示した、国語「平家物語」の実践では、音読練習場面での「相互評価」と、主人公の心情についての「話し合い」を行った。

まず、音読練習での「相互評価」場面で、相手に自分の評価を伝える際、よい部分だけを誇張して伝えるのではなく、直すべき点について、相手

の気持ちに配慮しながら主張している姿が見られた。また、生徒の感想にも「自分のできていない部分がわかった。よいところもほめてもらえて頑張ろうという気になった」「どこがだめでどこができているか、アドバイスし合えて楽しかった」など、相手のよさや自分のよさに気付いている記述が目立った。これらは、「話し方トレーニング」で学んだ「アサーティブな話し方(適切な自己主張)」の基本的な技能や考え方を、「相互評価」で活用することができたからだといえる。

さらに、主人公の心情についての小グループでの「話し合い」では、「つながりトレーニング」で理解した人間関係形成能力の基本を活用する様子が見られた。

「つながりトレーニング」実施前の「自己理解」と「話し合い」に関する自己評価が低く、授業中の話し合いでも、自ら進んで意見を発表することが少なかった抽出生徒C男は、「自己理解トレーニング」により、「自分は読書が好きで、知識が豊富である」というよさを意識することができた。また、「話し合いトレーニング」後の感想では「たとえみんなと違っていても、自分の意見を伝えることが大切だと思った」と記述しており、自分の意見を出すことの重要性も学んでいた。

このC男のグループでは、主人公の生い立ちや家族構成、登場人物の性格などに着目した意見がほとんどだったが、C男は、本文の中に書かれている「一般的な武士の考え方に反する」部分に着目した意見を出した。これは、トレーニングで「みんなと違う意見でも、自分に自信をもって発言することが話し合いでは大切である」ということを学び、実際に活用できるようになったからだといえる。

C男の意見を受けて、このグループは本文に戻って考え、そこから「歴史的な時代背景から考えて、主人公の行動はあり得るのか」という新たな視点が生まれた。これも、「一人の意見を大切にし、もう一度みんなで考える」という「つながりトレーニング」で理解した技能や考え方を授業の中で活用している一例といえる。

「話し合い」の授業後、生徒は「一人一人考え方が違うことがよくわかった。自分の思いも広がった」「違う意見を言っても否定されなかった。違った考えを参考にみんなが考え、深まったと思う」「友達と自分の意見が違っていても合わせれば新たに考えが生まれた」などとワークシー

トに記述した。このことから各トレーニングで学んだ技能を生かし、友達や自分のよさを意識しながら話し合っていたことがわかる。

## ② 国語以外の授業実践から

「相互評価」や「話し合い」は特別なテーマ設定や取組をする必要がない。そこで、多くの教科や単元でも実践が可能であると考えた。他の教員の協力を得て、英語の会話練習場面で「相互評価」を行ったところ、国語と同じ成果を得ることができた。また、社会では「話し合い」を取り入れた実践を行ったが、ここでも自分の考えを出した後に、友達の話についてもう一度考えるなど、トレーニングで学んだことを生かした活発な「話し合い」が見られた。国語以外の授業で実践した教員に聞き取り調査を実施したところ、「受容的に聴く姿勢が整ってきた」「以前に比べ発言数が増えた」「消極的だった生徒が何度も挙手するようになった」などの変化を感じており、多くの教科で「相互評価」や「話し合い」は実践が可能であることがわかった。

## ③ 授業全体から

「つながりトレーニングを生かした授業」について記述式アンケートを実施し、整理分類して図8に示した。すると、「トレーニングが授業に役

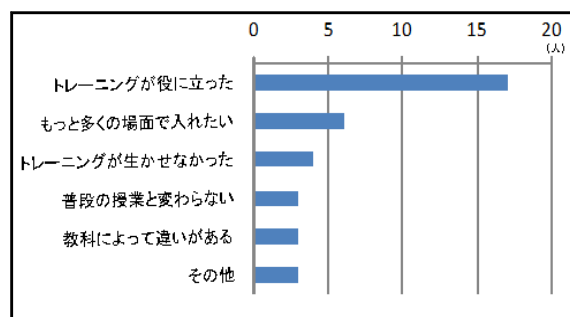


図8 つながりトレーニングを生かした授業の感想

立った」と答えた生徒が17人（47%）で最も多かった。また、「話し合いで意見がたくさん言えた」や「何を言っても否定されないとわかったので、安心して意見が言えた」という記述が多く見られた。さらに、他教科で実践の協力をした教員からは、「今まではあまり挙手をしなかった生徒が挙手をして発言する場面が増えた」や「以前に比べると、学級全体の発言数が増えている」という生徒や学級の変容を認める感想を得ることができた。

これらのことから「つながりトレーニング」で学んだことを意識した授業を繰り返し行うことに

より、生徒は安心して発言ができるようになり、学級全体の発言数も増えたことがわかる。これは「話し合い方トレーニング」で、話し合いの基本的な考え方である「出された意見は批判しない、批判されない」「自分の意見を持ち、できるだけ多く出す」「出された意見の中からよいものを作り上げる」などのルールを確認したことが役立っている。

また、「相互評価」に関する感想では、「自分でも苦手だと思っていた場所を指摘された。よく聴いてくれていると思った」や、「宿題で練習してきた場所をほめられて自信がもてたので、クラス全体の前で音読できた」などの記述があった。このことから、「自己理解トレーニング」で自分自身のよさを見つめることにより自分に自信がもてるようになったことや、「他者理解トレーニング」でお互いの共通点や相違点を認め合えるようになったことが有効であったと考える。

これらのことから、「つながりトレーニング」で学んだことを生かす授業を意図的、計画的に行うことで、人間関係形成能力を習得・活用できることがわかった。また、同時に各教科等の授業にも役立つことがわかった。

## 3 つながりシート

### (1) 実践の概要

自分の成長を実感しやすいように、「つながりプログラム」開始時と終了時に同じ項目で振り返りを行った。また、トレーニングや授業終了後に感想を記入した。

### (2) 結果・考察

「つながりシートのよさ」について記述式アンケートを実施して整理分類した結果を、図9に示した。

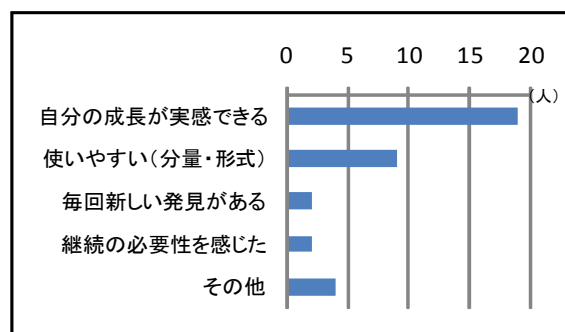


図9 つながりシートのよさ

「つながりシートのよさ」は「自分の成長が実感できる」と答えた生徒が19人（53%）と最も多



かった。「使いやすい」と答えた生徒も9人（25%）いた。生徒が「つながりシート」を肯定的にとらえていることがわかる。また、生徒が感じた「具体的な成長」についても記述式アンケートを実施し、整理分類して図10に示した。

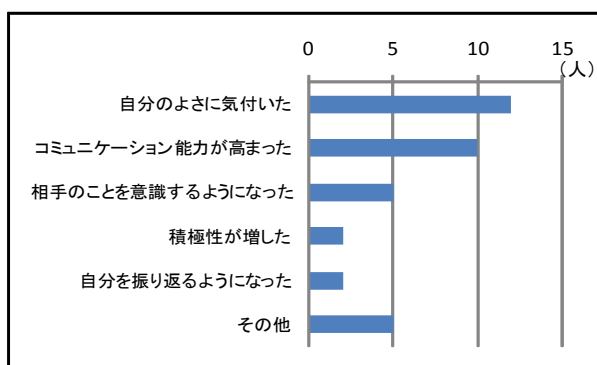


図10 成長を実感した部分

すると、「自分のよさに気付いた」という記述が12人（33%）と最も多く、次が「コミュニケーション能力が高まった」で10人（28%）、「相手のことを意識するようになった」5人（14%）であった。全体の97%の生徒が成長を実感しており、「つながりシート」を作成し、実践ごとに活用することで、生徒は自己の成長を実感できたといえる。

生徒の記述には、「毎回毎回発見があり、次につながった」や「同じ質問に対しても、自分の答えが最初とは違ってきているので、プログラムを実践して成長したと感じた」などがあり、以前と現在の自分の人間関係形成能力を比較できていることがわかる。このことから、学びのつながりや自己の成長を比較しやすい1枚型にしたことや、毎回記入して見返すという活用方法が有効であったことがわかる。

また、生徒観察からは【振り返り欄】を活用して、生徒は自己の成長を実感していることがわかった。【振り返り欄】を見比べ、自分の記述が変わったことに気付き、驚いている生徒が多く見られた。特に自己理解について、成長を実感した生徒も多かった。このことは、「自分にはよさがあると気づかなかったし、見つけようとしなかったけれど、今回、自分のよさもわかったし、友達の良いことを意識して見つけるようになった」や「自信がもてるようになって、自分の意見が言えるようになった」などの記述からもわかる。

同様に、アンケートにも「最初は発言が恥ずかしくてできなかったけど、トレーニングや授業で

意識するうちに、少しずつ発言できるようになった」「前に比べると友達と話すのが楽になった」「批判したり、人の話を最後まで聴けなかったりした自分が治った気がした」という記述があり、人間関係形成能力の視点で自分を振り返り、能力が身に付いたことを実感している様子が見られる。これは、感想や振り返りを記入する【感想欄】に、コミュニケーションや自己理解という振り返る観点を示したことで、生徒の意識が継続されたからだと考えられる。

「学んだことが実生活で生きたと感じた場面」について記述式アンケートを実施し、整理分類して図11に示した。

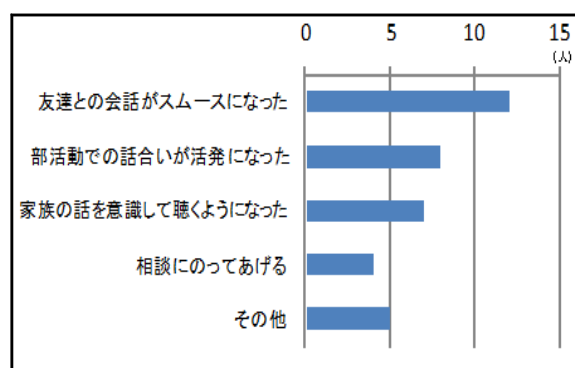


図11 学んだことが実生活で生きたと感じた場面

「友達との会話がスムーズになった」という記述が12人（37%）と最も多く、その他では「部活動での話合いが活発になった」が8人（22%）、「家族の話を意識して聴くようになった」が7人（19%）と多かった。【生活欄】には、「友達が落ち込んでいたので、明るく励ました」「部活の話合いで、中心となって発言したりみんなの意見をまとめた」「下校時に一人である友達を誘って一緒に帰った」など、学んだ人間関係形成能力が授業中だけでなく、幅広い場面で活用されていることがわかる記述が多く見られた。これは【生活欄】を設けたことで、授業以外の場面での活用について意識されたものと考えられる。また、生活ノートの日記にも「帰宅後、祖父との会話の場面で聴き方や話し方を意識したら、祖父は喜びの会話がいつもより弾んだ」と記述する生徒もおり、人間関係形成能力について学んだことを実生活とつなげて意識化している姿も見られた。

以上のように「つながりシート」を作成し、活用することで、学んだ人間関係形成能力をつなげて意識化し、自己の成長を実感できることがわかった。

## VIII 研究の成果と課題

中学生の人権感覚の基礎となる人間関係形成能力を育成するために、「つながりプログラム」を作成し実践することで、次のことがわかった。

### 1 成果

#### ① 「つながりトレーニング」の有効性

参加体験型の「つながりトレーニング」は、生徒が主体的に学びながら、五つの技能が身に付いたことを実感でき、基本的な考え方を知ることができるトレーニングであった。このトレーニングによって、生徒は人間関係形成能力の基本について理解を深めることができた。

#### ② 各授業での意図的、計画的な取組の有効性

各教科等において、「つながりトレーニング」で学んだ人間関係形成能力の基本を、意図的、計画的に活用する場面を設定し、実践することで、人間関係形成能力を習得・活用できることがわかった。

#### ③ 「つながりシート」の有効性

複数の取組を共通の視点でつながりをもたせて、繰り返し意識することができる「つながりシート」を作成し、活用することで、生徒は学んだ人間関係形成能力をつなげて意識化し、自己の成長を実感できることがわかった。

### 2 課題

#### ① 取組の回数や期間の問題

取組を繰り返すことは大変重要なことではあるが、回数が多いと生徒たちは、取組を単調でつまらないものだと感じ、飽きてしまう。生徒アンケートの中にも「授業が同じパターンで、内容も似ているので飽きてくる」「違いがあまりわからなかった」という記述が見られた。大切な部分は繰り返しながらも、生徒が興味関心を継続できるような内容の更新を心がける必要がある。

#### ② 系統的な指導の問題

生徒の発達段階を考慮して、各学年や学校全体で実施することが望ましい。学校全体で取り組むためには、プログラムの内容や実施時期、系統性や継続性などについて、職員間で共通理解を図り、態勢を整え実施することが必要である。

#### ③ 保護者との連携の問題

家庭と連携し、共通の視点をもって取り組むことが重要である。学校での学びを家庭と協力して

より確かなものにしていくために、今後は情報を共有したり交換したりするなどの工夫が必要である。

### 3 まとめ

本研究では、中学生の人権感覚の基礎となる人間関係形成能力を育成することに取り組んできた。人間関係形成能力の向上を目指し、具体的なトレーニングや各教科等での授業の考え方、自己評価シートなどを「つながりプログラム」として示せたことは、学校教育全体から人権教育を推進する際の一例になったと考える。今後も、学習指導や生徒指導などの常時指導に人権の視点を取り入れ、人権教育の推進に取り組んでいきたい。

#### 〈参考文献〉

- ・人権教育の指導方法等に関する調査研究会議 『人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]』(2008)
- ・群馬県教育委員会学校指導課人権教育室 『人権教育のための参加体験型学習指導事例集』(2004)
- ・栃木県総合教育センター 『人権教育指導者専門研修テキスト』(2010)
- ・ERIC国際理解教育センター 著 『人権教育ファシリテーター・ハンドブック』ERIC国際理解教育センター(2000)
- ・特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム 著 『Lions Quest「思春期のライフスキル教育」プログラム 教師用指導書』特定非営利活動法人 青少年育成フォーラム(2002)
- ・堀 哲夫 編著 『子どもの成長が教師に見える一枚ポートフォリオ評価 中学校編』日本標準(2006)
- ・平木 典子 著 『アサーショントレーニング』日本・精神技術研究所(1993)